

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104013		
法人名	株式会社ハッピーパーク		
事業所名	グループホームハッピーパーク夢が丘		
所在地	長崎県長崎市小江原5丁目25-10		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年11月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家族会(オレンジリングの会)との連携を軸に、入居者のケアや行事活動及び企画立案の運営を行っており、自治会の協力のもと、地域活動や地域ボランティアの受け入れ等も積極的に行っています。これから、地域に根ざしたグループホームとして、家族会の支援の中、入居者が地域の一人として、より良い生活が行える事を期待しています。</p> <p>・当事業所は、薬の削減に取り組んでおり、薬での抑圧された生活ではなく、自分らしい普通の生活の中、生き生きとした笑顔に溢れた生活を送られています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との取り組みでは、農園をきっかけに地域交流が広がっている。運営推進会議には、地域ボランティアや農園で知り合った地域住民の参加があり、数多く意見交換している。今年度は収穫したサツマイモの焼き芋会を公園で開催するため、公園使用許可を市に依頼し、地域の子供達との交流を図ったり、文化祭と称し幼稚園児のお遊戯や職員バンドのイベントを催している。家族代表が中心になり家族会を運営しており、家族の意見を汲み上げるしくみがある。介護計画の支援状況を日々確認し、担当職員を中心に評価しており、達成した目標は日常出来ることとして支援し、新たな目標に取り組んでいる。職員は理念を周知し、利用者が自然に笑顔を表せるよう、常に技術の向上に取り組んでいる。理念にある「自分らしい普通の生活・地域の一人として・ぬくもりのある家でありたい」を基に利用者の日々の暮らしを支援しているホームである。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい普通の生活の実現の為、入居者の声を尊重し、御家族や地域との関わりを大切に、入居者様と心から笑い合えるように取り組んでいます。	理念はリビング、玄関、廊下などに掲示して職員間で共有している。理念にある「自分らしい普通の生活」を送る為に、薬での抑圧された状態を回避するよう、薬の削減に取り組んでいる。また「笑顔に彩られた生活」の実現に向け、利用者自身が日常を楽しめるように心掛け支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業や行事を通して地域との交流を行っています。また、積極的に地域ボランティアの受け入れを行っています。	自治会に加入しており、近隣住民とは普段から挨拶や会話を交わしている。事業所の農園がきっかけで、利用者・職員と住民との交流が盛んである。公園で収穫したサツマイモを使って焼き芋会を開催し、地域の子供達との交流も企画している。また、地域ボランティアを積極的に受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や御家族への広報誌の配布及び防災訓練への参加のお誘いや、地域奉仕を目的とした企画の実施を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度必ず実施し、推進会員や自治会等へ報告書配布行い、会議を通じて地域活動の働き掛けを行う。	会議は2ヶ月に1回開催し、規程のメンバー以外に地域ボランティアも参加している。ホームの利用状況や行事報告の後、活発な意見交換が行われている。また、自治会の要望を受け、会議の場を公民館へ変更したところ、参加者が増え有意義な時間となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流を積極的に行っており、介護相談員の受け入れも行っている。	長崎市の担当者とは、日頃から相談や報告等で連絡を取り合っている。行政より依頼があり、管理者が民生委員に向けての認知症の講話を行っている。グループホーム協議会を通し、行政との関わりを持つ機会がある。また、年1回、介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や全スタッフを対象にした施設内研修などで、全スタッフが認識し実施できている。	身体拘束について外部研修へ参加している。受講者が全職員へ報告し情報を共有している。各職員は自習し事業所独自のテストを受け、正しい理解に努めている。言葉による拘束についても禁止しており、現場ではその都度指導が行われている。日中は施錠無く、職員が見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフを対象にした施設内研修の内容に含まれており、日常生活の中で、身体的、精神的な変化に注意を払い、虐待防止についての取り組みは浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフを対象にした施設内研修の内容に含まれており、現在入居者に該当される方はいませんが、状況に応じた支援に取り組む準備はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、充分説明し納得のもと同意して頂いている。介護保険改定時にも必ず同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事企画に関して、入居者の声を元に立案された企画が多数を占めており、家族会(オレンジリングの会)との協議のもと、運営を行っています。	意見箱設置とやホーム相談窓口について、利用開始時に説明している。家族会を年4回開催しており、四季折々の行事は家族会の主導で企画、運営が行われている。利用者の体調管理のため、夏場の屋外行事を室内行事に変更するなど、要望を取り入れ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度行っているスタッフ会議とは別に、施設外での全スタッフ参加の会食を月に1度行い、全てのスタッフが意見を気軽に伝える環境作りを行っています。	月1回職員の食事会を設け、和やかな雰囲気の中で意見を述べやすい場面作りを工夫している。出た意見を汲み上げ、毎月の職員会議の議題として取り上げ運営に反映している。職員の意見を基にイベントの出し物の小物作りや音楽のバンドを組んだり、見守りしやすいように事務機の位置を変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じ、手当を付けている。他には、夜勤業務に対し手厚い手当が受けられている為、やりがいがある環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅スタッフが、新人スタッフを指導する事で、自らも業務について知識を付けて行こうと努力する為、お互いが向上出来るような仕組みとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や母体施設での研修の場には、全スタッフが参加できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係作りは、特に注意を払っている。入居者全員が自分らしく生活を送って行けるようスタッフ全員が気を使い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とは、入居前や面談時にご本人の事について話を良く聴くようにしています。その際には、御家族と共に御本人を支えて行きましようと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までこのような内容での支援は行った事が無いのではと思います。もし、この様な支援が必要であるとしたら実施出来るよう努力したい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは入居者の皆様は、私達スタッフにとって目上の人であり人生の先輩でもあるとの認識のもと介護させて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、御家族とスタッフの関係を楽器のトライアングルに例え、底辺を入居者・両サイドをご御家族とスタッフとし、底辺である入居者を共に支えて行きましよう、家族会と共に関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の御家族、知人など気軽に訪問して頂けるよう、働き掛けを常に行っており、ご家族が参加される行事を定期的に行っています。	家族の訪問の他、手紙や電話での交流を支援している。また、習い事仲間など友人等の訪問も多い。会話から利用者の馴染み深いレストランを聞き取り、迅速に外食ドライブを実行している。墓参りなど思いのある場所に外出できるよう、外出企画として実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、全員リビングで過ごして頂いており、家事やレクレーションを通して、入居者同士やスタッフとのコミュニケーションは普段から多く取れており、関係の支援は良くできていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院の為、退所された方に、スタッフが自主的に会いに行くなど、関係性が継続されており、御家族への連絡や相談などあれば、受付が可能になるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で思いや要望等を把握しています。	職員は日々の会話から思いや要望を汲み取っている。利用者の担当制を導入している。一人ひとりの時間を重視し、利用者寄り添った意向を把握している。全職員は互いに得た情報を、申し送りや個人記録に記入し、情報を共有している。発語困難の利用者は、表情や仕草から推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの中から、それぞれに合った事や活動などを把握し、その内容に沿ったケアプランの作成に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で思いや要望等を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員が、それぞれの担当者となっており、日々の変化や状況を把握し、スタッフ会議等で、他職員と意見交換を行いモニタリングに反映しています。	家族と本人の要望を基に介護計画を作成し、同意後実施している。短期・長期でモニタリング評価を行っている。支援内容は、サービス結果表に毎日記録している。毎月カンファレンス時に、担当者が作成した案に基づき全員で話し合い、3ヶ月毎に実施するモニタリングの検討会議に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目は毎日実施されているかチェックしています。その中で、変化が見られた場合は、モニタリングを実施する際に活用し、スタッフ会議等を通して、職員間で共有する様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方にとって、現状では対応できない場面やニーズが発生する事があります。その際は、その現状に合わせた対応への柔軟な支援は常に考えて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの農園を利用し、地域の方々と共同作業やイベント(夏祭りなど)の積極的参加を行っており、自治会や地域施設(保育園など)と共同での企画行事を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは良好な関係で、適切な医療を受けている。	かかりつけ医の継続は、家族の協力を得て受診しており、受診結果は家族から報告を受けている。往診を受けた場合も、受診内容は申し送りなどで職員は情報を共有し、家族にも受診結果を報告している。夜間や緊急時のかかりつけ医との協力体制があり、職員にも対応を周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に連絡を取り合いながら早期退院に向けた情報交換や関係作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族や医療機関との連携が取れる事を条件に支援する為の取り組みを行う準備はある。	現在、ホームでは看取り支援は行っていないが、看護職員が看取りに関する外部研修に参加している。職員間でも終末期・看取りについて議題があがっている。また、家族会時に参加家族と職員間で、看取りについての話し合いが行われている。但し、指針としての明文化は行われていない。	終末期・看取りには、利用者に関係する人々の協力体制や緊急時のチェックシートなど、具体的に話し合われている。話し合いの結果も含め、終末期・看取りについて、ホームの考えとその方針を明文化することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部のスタッフは訓練を受けていますが、その時々の入居者の状況を踏まえ管理者が応急手当や対応の方法などの指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	夜間帯での総合訓練を毎月第3水曜日を防災の日とし行っています。災害の際の地域ボランティアなど地域と協力体制を図っており、地域の消防団が近くにあります。	毎月、避難誘導や消火訓練、夜間想定など含めた、火災訓練を実施している。内1回消防署立会いで訓練している。地域へも参加を呼びかけ、参加者には認知症について理解してもらい、見守りを依頼している。消防団からも避難誘導についてアイデアをもらい、次の訓練に活かしている。自然災害時の避難場所や経路も確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業所のサービスの基本姿勢を掲げオリエンテーション時に必ず守ってもらう事項として、スタッフ全員に周知しています。	職員はプライバシーや尊厳に関するホーム内で学習し、テスト形式で内容を把握している。申し送り時もイニシャルを用いプライバシー保護に努めている。職員の守秘義務については携帯写真も含め周知し、ボランティアにも説明している。利用者とは敬語での会話を基本とし、耳障りな言葉遣いや声のトーンにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時、この事に対しては、耳を傾けています。希望・要望が自然と出てくるような働きかけは実践出来ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記と同じで、希望・要望は常に見つける努力を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で、着る服や化粧品など入居者のこれまでの生活を維持できるよう支援しています。好きな事を行えるように積極的に応援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー等は、入居者の皆様と話し合いながら決めていきます。また、調理の際は、入居者の皆様ができる事を積極的に参加して頂いています。	職員が利用者との会話から嗜好や季節の献立を話しながら決めていく。旬の食材やホームで採れた野菜をつかい、食事の話題にしている。職員と一緒に調理を楽しむ利用者もいる。毎日オヤツは利用者と一緒に作りで楽しんでいる。食べに行きたい店やメニューが話題にあがり、外食に出かけたり、お弁当を作りピクニックを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、特に注意しており、1日最低1,500ccは水分摂取出来ているか毎日チェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、ケアプランの日課表にも実施計画を立てています。個々の口腔内の状態に合わせた口腔ケアは、毎食時後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、それをもとに排泄パターンを把握しており、オムツ使用者も必ずトイレ誘導を行っています。	ホームではトイレ座位での排泄を支援している。排泄チェック表を作成し、各利用者の排泄状況を職員は把握している。失敗をしない支援方法について話し合い、誘導の見直しから改善した事例や、ラバーシートやパッド類の使用について、使用回数の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、便秘状態を小まめに管理しており、毎日の運動量や水分量に気を配り便秘の予防に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者の皆様には週3回をベースに曜日を決めていますが、その日の状態や状況によって臨機応変に入浴の時間や曜日を変えたりしています。	毎日入浴を準備しており、週3回を目安に入浴介助している。拒否時は強制せず、時間や声掛けを変えたり、同性介助など工夫している。1対1の入浴介助で利用者は職員と会話したり、ゆっくり湯船に浸かり心地よい時間を過ごしている。着替えは利用者を選んでもらい、様々な場面で利用者のできる事を伸ばすよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間本来昼間は覚醒し、夜は睡眠をとる事が自然であり、極力昼間の時間帯はリビングで、退屈しない様、工夫しながら過ごして頂くことで、昼夜のバランスがとても良い状態が継続出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に注意し、服薬間違いのないようダブルチェック対応を行っています。特に認知症の薬・睡眠薬等身体機能に著しく支障をきたす薬に対しては主治医と相談しながら徐々に減らすなど対策を講じております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの趣味や嗜好に合わせた個別な対応をさせて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に対しては積極的に対応させて頂いております。スタッフの人員配置も基準より多く配置しており、その日の外出希望にも即応できる体制ができています。	天候や利用者の体調に配慮しながら、犬の散歩やホーム周辺や畑に出掛けている。また、利用者の希望からドライブや買い物など個別に対応している。その日の希望にはできる限り迅速に対応している。おくんちや花見、紅葉など季節毎の外出企画もあり、全員で外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理可能な方には、お金所持の制限はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人や御家族の希望があれば、電話や手紙のやり取りは大いに歓迎しています。手紙のやり取りに関してはスタッフの支援を受けながら実際に行った事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の一般的な建物なので、お年寄りにとっては不十分な空間ではないと思います。	リビングの大きな窓は、穏やかな日光が入り心地よい環境である。窓からは菜園や移ろう季節の風景が見られ、開放感がある。状況に応じテーブルの配置を変えたり、利用者が楽しめる雰囲気を作っている。掃除は毎朝職員が行い、拭き掃除には次亜塩素酸水を使用し、感染対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルとくつろげる空間ソファは別々の場所としていますので、自分の気にいった場所で思い思いくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の大きなものを除けば、持ち込みは基本的に自由です。使い慣れた家具を持ち込まれている入居者の方も多数いらっしゃいます。	居室にはテレビや使い慣れた家具や小物、飾り付けなど自由に持ち込むことができる。担当職員が部屋の表札を作り、利用者の個室作りに取り組んでいる。毎朝掃除と換気、次亜塩素酸水を使った拭き掃除によって、快適に過ごせる居室となっている。但し、パッドがそのまま置かれている部屋がある。	個性的な部屋作りに取り組んでいるが、居心地のいい居室となるために、パッド類が目に入らないように収納の工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングに、入居者全員氏名、生年月日をポスターとして貼り、自分の存在がいつでもわかるよう工夫している。又、リビングに掲示板を設置しており、季節や行事を感じて頂けるような内容を掲示しています。		